

平成26年度奈良県がん予防対策推進委員会（第2回受診率向上部会）議事要旨

日時：平成27年2月26日（木） 午後4時～6時

場所：奈良県産業会館 3階 会議室1

出席者：

（委員）今田順子、上中久美子、浦嶋偉晃、大石元（委員長）、木下智太、額田一郎、堀川巴清、森高香代、吉岡敏子

概要

(1) 市町村がん検診受診率(平成25年度確定値)について

●奈良県のがんの現状

- ・H25年がんによる死亡数 4,162人（男性2,486人 女性1,676人）
- ・死亡数 男性 1位 肺がん, 2位 胃がん, 3位 肝がん
女性 1位 肺がん, 2位 大腸がん, 3位 胃がん
- ・75歳未満のがん年齢調整死亡率（人口10万対）・・・県 78.2人 ※全国 80.1
- ・75歳未満のがん年齢調整死亡率による全国比較・・・県は肺がん、胃がんが全国より多い。

●H25年度受診率確定値について報告。

	(24年度)	(25年度)
胃がん検診	6.4%	6.5% (+0.1%)
肺がん検診	7.1%	7.6% (+0.5%)
大腸がん検診	18.5%	19.0% (+0.5%)
子宮頸がん検診	20.0%	20.0% (±0.0%)
乳がん検診	20.0%	19.7% (-0.3%)

- ・胃がん、肺がん、大腸がん検診は前年度より上昇。
- ・子宮頸がんは同値。乳がんは前年度よりやや下降。

●H25年度市町村がん検診プロセス指標値確定値（※精度管理委員会資料）

- ・胃がん、肺がんは受診率が課題である。
- ・大腸がんは精検受診率が国の許容値より低いのが課題。

●国民生活基礎調査よりみた受診率（市町村・職域・人間ドックを含む）について報告。

	(22年度)	(25年度)
胃がん検診	29.3%	37.2% (+7.9%)
肺がん検診	20.2%	35.5% (+15.3%)
大腸がん検診	24.7%	35.8% (+11.1%)
子宮頸がん検診	35.7%	39.2% (+3.5%)
乳がん検診	35.7%	39.4% (+3.7%)

※受診率50%目標値の指標である。

○乳がんは、ピンクリボン活動など頑張っておられる印象が強いが、受診率は低下している。

→県の市町村がん検診受診率は低下しているが、全国より高い受診率。しかし職域、ドックを含んだ国民生活基礎調査の受診率が全国より低い。

○胃がん検診の受診率がかなり低い。胃がん検診を実施している企業が少ないことが関与している。企業で実施している特定健診時には、意識してがん検診の受診勧奨をすべきである。

また、がん検診を実施していない医療機関（開業医）も積極的に受診勧奨に協力してもらうことが必要である。

○協会けんぽでは、生活習慣病予防検診でがん検診の補助をしているが、労働安全衛生法の定期検診のみの人については、がん検診の受診の有無が把握できない。事業主や従業員の家族の受診歴も把握できていない。

(2)平成26年度のがん予防対策の取組結果について

平成26年度がん予防対策の取組結果ならびに討論がなされた。

●がん検診推進事業

- ・奈良県がん予防対策推進委員会
- ・検診精度向上事業
- ・「がん検診を受けよう」奈良県民会議
- ・奈良県がん検診受診促進企業連携事業
- ・がん予防推進員養成事業

→市町村はモデル事業に前向きである。事業に参加した市町村の受診率は向上している。今後の成果を期待したい。

●健康寿命を延長する取組推進モデル事業（がん検診受診率向上対策分野）

- ・天理市：5がん検診個別受診勧奨と効果的な普及啓発事業
- ・五條市：がん検診受診の市民実態調査と効果的対策の検討

○五條市の市民意識調査において、「検診の効果に疑念を持っている」「がん検診を受けても安心とは思えない」という回答がみられた。

→検診の効果に信頼性がないと感じている市民が含まれることを示唆している。

○五條市は、今年度モデル事業を実施し、がん検診受診率向上の知事表彰を受賞したが、市長ががん検診の受診率向上に意欲的で、補助金対象以外の人にもコール・リコールを実施するための予算要求をしている。

→すばらしいことである。五條市を、見習いたい。全市町村の首長に十分に理解をいただいて、予算化していただくことが非常に望ましい。次年度の五條市の成果に期待している。

- ・川西町：大腸がん検診個別受診勧奨・再勧奨事業
- ・王寺町：子宮がん・乳がん検診個別受診勧奨・再勧奨事業

●がんの教育総合支援事業（教育委員会）

○がん教育のリーフレットについて

長生きすればがんになる確率が高くなると記載されているが、子宮頸がんや乳がんは若い人が罹患する。若い人でもがんになることをリーフレットにいていただきたい。がんは、高齢者の病気だと思われると、子どもたちは、自分たちには関係がないとってしまう。

→授業の補足の中に含まれている。検診の対象年齢についても「子宮頸がんは、なぜ20歳からなのか」説明している。がん検診の検査については、絵や写真を示した補足説明は重要だと考えている。

○がん教育のモデル校による授業の事前・事後のアンケート結果は？

→教育委員会より、一部資料としてもらっている。

- ・国で決めているアンケート項目があり、授業前後でどう変化したかを評価する。
- ・「がんは身近な病気だと思う」という項目が、授業後で増加しているが、がん治療や命の大切さ短時間の授業の中ではなかなか伝えられないのが現状である。

(3)平成27年度がん予防対策事業について

がん検診推進事業ならびに健康寿命を延長する取組推進モデル事業の予算（案）が示された。

健康寿命を延長する取組推進モデル事業の予算がかなり増加した。

- ・平成26年度からの継続モデル市町（天理市、五條市、川西町、王寺町）
- ・新モデル市町（御所市、広陵町、葛城市、桜井市、下市町）

(4)その他

市町村におけるがんやがん検診に関する講演会等への講師派遣についての照会ならびに、現時点での希望市町村の状況が報告された。各市町村への評価が高く、講演希望も多い。